

環境セミナーを開催

当協会は、2019年3月6日、海運ビルにおいて「環境セミナー」を開催した。環境を巡る諸問題に関する情報の提供を目的として、2つの講演が行われた。概略は以下のとおり。

なお、同セミナーには、会員会社をはじめ、海事関係団体・企業や金融機関など83名が参加した。昨年同様、セミナー後、情報交換を目的としてレセプションの場を設けた。

「海運セクターにとっての環境問題と競争力」

足達英一郎氏（株式会社日本総合研究所 理事）

前半は、近年の海運業界における環境規制（SOx、バラスト水、GHG、シップリサイクル等）の進捗を概観し、「海洋の持続可能性」に大きな関心が向けられている現在の特徴として、ESG投資という環境も考慮した機関投資家としての立場での見方を紹介。従来の利潤追求型から環境への配慮を評価対象とし、環境を考慮することによる企業のサステナビリティも重視した投資家の姿勢について説明された。

後半は、日本と欧米における環境への姿勢の違いを浮き彫りにした説明が展開された。とりわけ、日本では環境問題に触れることがタブー視される傾向にあることを力説され、CHANGEという通常の変化ではなく、METAMORPHOSISという変容するくらいの意識改革が、今後は求められることになることと説明された。海洋環境や地球温暖化防止等に取り組む海運業界も、しかるべき変革が求められていくことになると示された。

[\[配布資料を見る\]](#)



「SOx 規制に関する国際動向」

森本清二郎氏（公益財団法人日本海事センター 主任研究員）

国際海事機関（IMO）は、船用燃料油の硫黄分規制（SOx 規制）を2020年に強化し、規制値を3.5%から0.5%に引き下げることを決定している。本規制が来年1月から適用されるにも関わらず、一般的に十分に理解を得ているとは言い難い状況の中、なぜ、規制が始まり、何が問題となっており、今後、何をしていかなければならないかということ、を、わかりやすく説明された。

「SOx 規制の概要と意義」では、酸性雨の低減と健康被害の防止を

理由に規制が始まったこと、「0.5%規制への対応動向」では、主な3つの対応方法、すなわち、0.5%の適合油の使用、船上排ガス洗浄装置の搭載、LNG燃料等への切り替えについて詳細に解説されたほか、適合油の供給見込みについても説明された。

最後に「0.5%規制の影響と課題」では、海運会社が直面するコスト増について触れたのち、今後の課題を紹介して締めくくった。

[\[配布資料を見る\]](#)

